

カトリック 三田小教区報

2020年 7月号(No. 213)
三田市屋敷町8-15 TEL 079-562-4404 FAX 079-562-9404
発行責任 神田 裕神父 編集:宣教委員会広報部

そして私たち自身も「コロナ」?

日曜日のミサが始まり 1 か月がたちました。歌もなくお祈りも小さな声で平和の挨拶は無言で聖体拝領はフェイスシールド越しで、なんだか奇妙で神妙で、緊張のうちに始まりました。聖堂入り口では検温と消毒。ミサが終わった後の椅子の消毒などなど。お世話くださっているみなさんほんとにありがとうございます。

ところで私はここ三田に来てまだ 2 年とまらないのですが、この短い間にコロナ災害だけではなく、今までに経験してきた以上の酷い台風や豪雨があったり避難勧告があったり、また益々酷くなる夏の猛暑などなど、私たちの生活しているこの自然環境も激変してきています。地球温暖化という言葉もこれまでよく耳にしてきました。

温暖化の原因は二酸化炭素の量が増えていることが原因なのですが、過去 80 万年前の規模で見ると、温暖化時の二酸化炭素のこれまでの最高値が 30 万年前の 300ppm (年平均) で、その原因は主に火山の噴火だそうです。ところが現在の二酸化炭素の排出量は過去 50 年間で 405ppm も輩出しているのだそうです。世界中の火山が 40 年以上かけて排出する炭素の量を私たち人類はわずか 1 年で排出しているということなのだそうです。

いま教会でも検温をしていて体温が 37.5 度以上になるとコロナの疑いが出てきます。私たちの住むこの地球もどうもいま体温? が 37.5 度を超えたようです。つまりこの地球も「コロナ」に感染しているといえます。原因は、私たち人類なのでしょう。つまり、地球にとっての「コロナ」は実は私たちなのかもしれません。

「兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気がつかないのか。」この聖書の言葉が何となく身に沁みます。私たちを攻撃してくるコロナ(おが屑)には今や敏感な私たちですが、この地球を攻撃している「コロナ(丸太)」には気がつかないのか、とされているように思えてならないのです。

神田 裕神父 (三田教会担当)